

# 町民ぐるみの議論展開

## 富岡町 復興ビジョン策定に向け、意見交換

福島第二原子力発電所が立地する富岡町は、住民の帰還と町の震災復興に向けて、「富岡町震災復興ビジョン策定委員会」(委員長＝三瓶一義・副



町長)を立ち上げて、町民ぐるみの議論を展開している。農林漁業、商業、教育、行政区、消防団などの代表に、一般公募の住民と町議員で構成し、産業、住環境、防災の三作業部会に分かれて検討を行う。

十月二十一日、役場機能はまだ置かれていない郡山市の「ビッグリパレック」で、復興ビジョン案を提示し、意見交換を行い、十二月中に同ビジョンを決定する―ことを明らかにした。

意見交換では、「町づくり会社」の創設の必要性、地元企業の直接受注、除染専門員の育成、放射性廃棄物の処分場の誘致、町からのきめ細かな情報伝達などの

必要性が訴えられた(写真)。

復興ビジョン骨子では、①原子力発電所に頼らない産業基盤の形成②製造業や自然エネルギー関連産業の企業誘致③水耕栽培による植物工場の導入④放射線医療の充実―などを挙げている。

以降、同機構による処分技術の整備状況をまとめた包括的な技術報告書と評価している。

NUMOでは今後、東日本大震災を踏まえた検討を行い、追加の技術報告書を二年度末目途に取りまとめる。

安全な地層処分を支える技術は着実に進展した、と評価している。

NUMOでは今後、東日本大震災を踏まえた検討を行い、追加の技術報告書を二年度末目途に取りまとめる。

安全な地層改良工事、地中に挿入したロッドから固化材を高圧噴射し、改良対象地盤を切削しながらセメント固化材を造成する「高圧噴射かくはん工」。同工法では、副次的に廃泥が地上に排出されるが、最終処分場の残余逼迫の状況から、同一現場内で建設汚泥処理土に処理し、路床材としての再生利用する。

発生抑制、再利用、再生利用の「3R」の取組を啓発する「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者表彰」の受賞者が、このほど発表された。同紙関連では、四国電力の伊方発電所内盤改良工事で発生する建設汚泥の再生利用に、同社と鹿島・奥村・共同企業体が会長賞を受賞。

同工事は、伊方発電所内の荷揚岸壁エプロン部の耐震性向上のため実施からの参画を求める取組。四市町村(このA(南相馬市他)、B(田村市他)、C(広野町他)のグループに分かれる。

選定結果(代表企業名のみ)は、Aが大成建設、Bが鹿島建設・日立プラントテクノロジ・三井住友建設、Cが大和組。

町長)を立ち上げて、町民ぐるみの議論を展開している。農林漁業、商業、教育、行政区、消防団などの代表に、一般公募の住民と町議員で構成し、産業、住環境、防災の三作業部会に分かれて検討を行う。

十月二十一日、役場機能はまだ置かれていない郡山市の「ビッグリパレック」で、復興ビジョン案を提示し、意見交換を行い、十二月中に同ビジョンを決定する―ことを明らかにした。

意見交換では、「町づくり会社」の創設の必要性、地元企業の直接受注、除染専門員の育成、放射性廃棄物の処分場の誘致、町からのきめ細かな情報伝達などの

必要性が訴えられた(写真)。

復興ビジョン骨子では、①原子力発電所に頼らない産業基盤の形成②製造業や自然エネルギー関連産業の企業誘致③水耕栽培による植物工場の導入④放射線医療の充実―などを挙げている。

以降、同機構による処分技術の整備状況をまとめた包括的な技術報告書と評価している。

NUMOでは今後、東日本大震災を踏まえた検討を行い、追加の技術報告書を二年度末目途に取りまとめる。

安全な地層処分を支える技術は着実に進展した、と評価している。

NUMOでは今後、東日本大震災を踏まえた検討を行い、追加の技術報告書を二年度末目途に取りまとめる。

安全な地層改良工事、地中に挿入したロッドから固化材を高圧噴射し、改良対象地盤を切削しながらセメント固化材を造成する「高圧噴射かくはん工」。同工法では、副次的に廃泥が地上に排出されるが、最終処分場の残余逼迫の状況から、同一現場内で建設汚泥処理土に処理し、路床材としての再生利用する。

発生抑制、再利用、再生利用の「3R」の取組を啓発する「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者表彰」の受賞者が、このほど発表された。同紙関連では、四国電力の伊方発電所内盤改良工事で発生する建設汚泥の再生利用に、同社と鹿島・奥村・共同企業体が会長賞を受賞。

同工事は、伊方発電所内の荷揚岸壁エプロン部の耐震性向上のため実施からの参画を求める取組。四市町村(このA(南相馬市他)、B(田村市他)、C(広野町他)のグループに分かれる。

菅政権で、福島原子力発電所事故後の三月二十九日から九月二日まで内閣官房参事として、原子力事故対策や原子力政策のアドバイザーを務めた田坂広志・多摩大学大学院教授が十月、東京・内幸町の日本記者クラブで講演し、その内容がこのほど、同記者クラブのホームページにYouTubeを介した動画と同日が用いたパワーポイント資料が掲載された。

同記者クラブは震災後、シリーズ企画「3・11」としてさまざまな人達の話の語り継ぎをしており、同氏の講演もその一環。

田坂氏は「福島原発事故が開けた『バンドラの箱』と題して講演し、野田現政権が答えるべき『国民の七つの疑問』を披露した。東京大学原子力工学科を卒業し、学位論文として『核燃料サイクルの環境安全研究』で博士号を取得した同氏が、原発事故対策の「現実」、原子力行政の「問題」、原子力政策の「矛盾」を指摘した。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

同氏は、福島原発の現時点での最大のリスクは「再度、同規模の地震と津波が来る」と指摘した。今後、社会的費用が「国民負担」になり、政府への「信頼」が失われるほど、風評被害コストとその対策コストが増えるとした。

### 2011年 放射線疫学調査講演会のご案内

財団法人 放射線影響協会

放射線影響協会は文部科学省からの委託を受け、原子力発電施設等の放射線業務従事者等を対象とする疫学的調査を実施しております。その活動の一環として講演会を開催します。

ご多忙中とは存じますが、お繰り合せの上、ご参加下さいますようお願い申し上げます。

開催日時：平成23年12月14日(水) 13時15分～17時30分  
 場所：(財)がん研究振興財団 国際研究交流会館 国際会議場3階  
 〒104-0045 東京都中央区築地5-1-1 (http://www.fpcr.or.jp/about/access.html)  
 主催：(財)放射線影響協会  
 後援：日本放射線影響学会 日本疫学会 日本保健物理学会  
 参加費：無料(定員:160名)  
 申込方法：当協会ホームページ(http://www.rea.or.jp/) 又は ホームページへのアクセス手段がない場合は、当協会の電話(03-5295-1494) またはFAX(03-5295-1485)  
 申込締切：平成23年12月8日(木)15時  
 問合せ先：白武、戸川(Tel 03-5295-1494)

### 2011年 放射線疫学調査講演会 プログラム

12:30 (開場)  
 13:15 開会挨拶  
 13:25 座長:公益財団法人 体質研究会 主任研究員 異 紘一

講演1「生物学的メカニズムからみた被ばく時年齢効果」  
 (独)放射線医学総合研究所 発達期被ばく影響研究プログラムリーダー 島田 義也

14:15 講演2「原爆被爆者における低線量被ばくの影響および被ばく時年齢効果」  
 (財)放射線影響研究所 疫学部長 小笹 見太郎

14:55 (休憩)  
 15:10 座長:長崎大学 名誉教授 長瀬 重信

講演3「放射線被ばくの甲状腺への影響:原爆被爆とチェルノブイリ事故でわかったこと」  
 (財)放射線影響研究所 臨床研究部 臨床検査科・放射線科 科長 今泉 美彩

15:50 講演4「チェルノブイリ事故における小児甲状腺がん過剰の遺伝子からの考察」  
 長崎大学 原爆後障害医療研究施設 分子診断学研究分野 准教授 鈴木 啓司

16:30 (休憩)  
 16:40 総合討論  
 話題提供 「高自然放射線地域住民のがんリスクについて」  
 鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科 教授 秋葉 澄伯  
 「低線量影響の不確実性と変動要因」  
 東京医療保健大学大学院 看護学研究科 教授 伴 信彦  
 「原子力発電施設等放射線業務従事者等に係る疫学的調査について」  
 (財)放射線影響協会 放射線疫学調査センター長 笠置 文善

17:25 閉会挨拶